

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年、若干の修正を加え簡潔にしたところであるが、地域密着型サービスの役割を加味した、理念となっていない面もある。	○	理念の内容を再度検討し、地域密着型サービスとしての、役割を考えにいった理念作りも検討する。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	その人らしく暮らしてもらうために、管理者を含め、勤務引継ぎ時等に理念を唱和したりして、理念共有するようにしている。		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や、地域の人達に色々な機会を通じて、ホームの考え方を広報するようにしているが、まだ不十分である。	○	ホームの考え方、特に地域密着型サービスの役割について広報しながら、地域の人達にも協力してもらえよう体制作りしていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	一部の人達とは気軽に声がかけているが、まだ隣近所でも、日常的な付き合いまでは至っていない。	○	色々な機会を通じて、出来るだけ当方より声をかけて、ホームの広報に努めるようにする。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会にも参加し、色々な行事にもできるだけ参加するようにしている。	○	地域における行事等の参加を、積極的に行ないながら、ホームの防災に関する協力依頼も、お願いしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現状は、利用者への支援が手一杯で、地域の高齢者へのかかわりは出来ていない。	○	利用者への支援を大事にしながら、地域の高齢者の方々の暮らしに生かせるような、係わりが出来るようにしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今までの自己評価及び、外部評価の調査報告書の内容等検討しながら、直ぐやれること、段階的に計画的に時間を要することなど、前向きに改善を図るようにしている。	○	まだ改善できない事項等についても、少しでも改善できるように前向きに取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状では、業務及び概要報告などが主体になり、具体的に意見等出してもらい、そのサービス向上までは至っていない。	○	出来るだけ意見を出してもらいながら、その意見をサービス向上に活かせるようにしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	18年度に実地指導等もあり、その係わりで、色々情報や指導を受ける機会を作っている。また法的な解釈についても指導をもらったりしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在の入居者に該当者はいないが、一昨年前までは市社会福祉協議会に依頼し、支援していた。	○	今後制度利用必要な人には、色々な制度活用できるよう支援していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について、市の包括支援センターに資料を依頼し、ホームの勉強会等に利用して、事業所内での虐待防止に努めるようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、利用者、家族に対して説明を行い、納得の上、契約するようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付についても体制できている。色々家族とも話し合う機会作りを行い、入居利用されている家族より不満等、話かなかったか話を聞くようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	遠方の家族には、月一回の請求書発送の時状況を報告するようにしている。来所できる家族には、都度状況を説明している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付についても体制できており、家族とも話す機会を作るようにして、色々相談等も受けている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場職員の意見等も月、1～2回の検討会を通じて出し合うようにしているが、運営に関する意見等は少ない。	○ 色々な面から、意見を出せるような環境作りをしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	今までにホームとしては、利用者や家族からの要望等により、勤務内容等について調整した例がない。	○ 今後、利用者や、家族等の状況変化等により、職員の確保や勤務調整が必要になったら検討していきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員の馴染みの中で信頼関係も生まれており、利用者に安心して暮らしてもらうためにも、馴染みの職員による支援が出来るよう配慮している。現在のところ、ここ数年離職した者もない。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	地域の同業者との交流の機会作りを行い、相互訪問できるように、積極的に取り組みたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○	職員とも、もっと身近に話し合える機会も作りながら、ストレスの原因などについても一緒に考えていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム等に見学に見えたり、相談に見える時は切羽詰まった状態が多く、そのケースによっては他の施設や、行政にも一緒に相談したりしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に家族と一緒に来てもらい、見学をしたり、他の入居者とお茶を飲んだりしながら、ホームの雰囲気に馴染んでもらうなど、家族にもホームの状況を理解してもらいながら、利用開始している例も多い。ケースによっては病院から直接入居の例もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人が地域の中で、その人らしく生活できるように、一緒に過ごす中で喜怒哀楽を共にしながら、本人の生活歴の中から教えてもらったり、支えあいながら生活してもらっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人にとってどのようにすれば良いか、家族とも話し合いながら、お互いの立場に立って、その思いを共にして入居者ご本人を支えていけるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族関係にも色々なケースがあり、実の親子から嫁姑、又は甥、姪などと多岐に渡っており、それぞれの立場、関係にも良い状態だけではない。本人にとってどうかを判断材料として、お互いの立場も理解しながら良い関係へ向けられるように支援していきたい。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人に行きたい所や会って見たい人など、色々たずねながら具体的にはっきり言える人は少ないが、昔の家を訪ねたり、墓参りに行ったりと、少しでも希望があれば、出かけていくようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を職員が良く把握しながら、共に支え合えるような人間関係作りに努めるようにしている。また人とかかわれない人が孤立しないように、共に暮らせる楽しみを支援するようにしたい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期の入院等によりやむなく退居され、退院の時点で自宅では住めない状況にある方など、家族や、病院のワーカーなどと共に話し合いながら、次の施設や病院を探すなど、関係が続いているケースも多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を聞ける人には、その人らしく暮らしていただけるように、支援している。思いや希望の聞けない方は、スタッフ間で本人の立場に立った意見等を出し合い、検討するようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自分らしく暮らしてもらうためにも、これまでの生活については本人、家族から聞かせてもらっている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の出来ること、出来ないことを把握しながら、一日の流れの中で共に暮らすことで、現状把握に努めるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	地域の中で、本人がより良く暮らしていただくためにも、本人、家族の思いや、スタッフ間で意見を出し合って介護計画作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則3ヶ月おきの見直しをしながら、特別な変化が生じた場合、家族を含めてスタッフ間の意見を聞きながら実情にあった計画を作るようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の看介護、観察の記録を記入、内容等職員間で共有しながら、ケアに生かすようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人が、安心して暮らしてもらえるように、在宅の延長となるような馴染みのスタッフと、毎日が暮らせるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	施設でやれない面を、地域の人、官民の場の力を借りながら暮らしの支援をやって生きたいが、まだ取り組みとしては緊急的な面だけである。	○	暮らしの中に、心の豊かさまで高められるように、それぞれの専門分野の協力を得るようにしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状では介護保険以外のサービス等の利用は出来ていないが、利用できるようなサービスがあれば検討したい。	○	本人の生活が事業所の中だけにとどまらず、外に足を伸ばせるなど、介護保険以外のサービスで、利用できることがあれば利用していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働については、個別支援等についての連携は今のところ出来ていない。生活援護の係り等とは各担当者と個別的に支援した経緯はある。	○	今後については、事業所のみでは解決できないような困難事例等については、相談しながら本人にとって一番良い方法等、個別支援できるようにしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅で行きつけの医師に、引き続き医療の希望があれば、継続してもらっている。また事業所の協力医療機関を主治医とする場合は、本人、家族の了解をとるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居時、すでに専門医に受診されていた方もあり、ホーム内においても、専門医に往診をお願いして治療方針や、薬の処方などケースごとに都度調整しながら、個別支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関の看護職等との交流はあるが、地域の看護職との係わりは出来ていない。	○	地域の看護職員との連携のとれる機会を作り、相談に乗ってもらえるような環境作りをしていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入院にも色々ケースがあるが、家族とも常に連携しながら、病院等のケースワーカーとも情報交換を行なうようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当ホームとしても、運営方針に重度者や、ターミナルケアについてサービス提供は対象としていないが、家族等ともそのような事態になった時のことは常々話し合っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	疾病の重度化等については、主治医と相談しながら方針としては、病院へお願いするようにしている。また、ターミナルケアについても現状では取り組んでいない。	○	今後については、ターミナルケア等についても、家族の意向等を参考にしながら、検討していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	病院や、他の施設、自宅等に移り住む場合、家族とも連携しながら情報の交換を行なうようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳と、権利を守る為に、プライバシーを守る体制作りをしているつもりであるが、言葉による失敗や、対応など気づかないうちにプライバシーを損ねている面があるように思える。	○ 馴染みの中にも、プライバシーを損ねることのないように、スタッフ全員で常に確認するようにしたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一日の生活の中で、リズム作りの声かけなどしているが、本人の好みや希望など、出来るだけ確認しながら、次の行動に移ったりしているが、時々拒否もあり無理強いはしないようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には、一日のリズム作りの日課を作っており、それに沿って生活しているが、強制はしていない。個々のペースを通す人もあり、希望に沿って支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容、美容は、希望される方は望む店等に連れて行っている。経済的な面もあり、施設内でスタッフがカットすることもある。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は、一緒に準備など出来ていた方も出来なくなったりで、食材料の一部準備がやっとになっている。食事は家庭的なメニューが多いが、皆さん殆ど完食されている。また出来る方は、片付け一緒にやるようにしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望されるものについては、日常的に楽しんでもらっている。タバコは場所を決めて喫煙し、食事の後に皆さんが食べ終わってから喫煙されている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	大半の方がリハビリパンツ着用中であるが、声かけでトイレ誘導している。一人だけに声かけせず、全員に声かけしながら、さりげなく誘導して排泄うながすようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者からの希望は特にないが、現状として時間帯や、回数等希望を言われたら出来ていない。現在は午前中を中心に入浴実施しているが、特に不平不満は出ていない。	○	曜日や時間帯を決めてやっている現状であるが、今後については出来るだけ前向きに検討していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人にとって、自然のリズムの中で暮らすことが出来るような支援が必要と思われるが、それに乗れない人も多く、また逆に声かけ誘導しなければ、一日中眠りこける方もあり、一人一人にあわせた支援を行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人に合った役割を持ってもらうことで、自分の存在感を認識でき、そのことが暮らしの中で自信となって、暮らしてもらうようにしている。リーダーシップや体操、レクリエーションの音頭とり、カレンダーの日付当番、一年間の晴雨表付けなどである。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度管理できる方には、少額の金銭所持してもらっている。現状は大半の方は預かっている状態である。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節、天候にもよるが、気候がよくなって快適な日には、戸外に出て外気浴、散歩などするようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の思いの場所など、色々ケースによって出かけられるように支援している。墓参り、病院見舞い、帰宅、施設面会など。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をすることで、落ち着いてもらったり、訪問の約束をしてもらって喜ばれたり、電話の個別援助しているが、手紙については日常的に出来ていない。	○	手紙の読み書きについても、支援しながら手紙のやり取りができるように、支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居されている方々は、訪問面会をととても喜んでおられることから、家族にも出来るだけ面会をお願いしている。居室でお茶を飲みながら話してもらったり、ホールで皆さんと一緒に湯茶接待している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケースによっては、家族からどうしてもして良いからと申し入れがあったりもするが、ホームの方針としては、身体拘束はしないことを決めており、行なっていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	通常は殆どの出入り口はオープンにしており、正面玄関も自由に入出入りできるようにしてある。ただし、入居者の状況によっては、危険防止のため施錠することもある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の動きや表情など観察しながら安全に配慮している。夜間の巡回も2～3時間おきに巡視している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物品、刃物や薬等は所定の場所に保管するようにしている。庭いじりなどの道具等については、利用者と一緒に使っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	食事中誤嚥等が起きないように見守りをしながら、服薬についても配膳時に一人一人に渡している。服薬できない方へは直接服用介助している。転倒事故については防止について全員で気をつけているつもりだが、4月にも発生している。	○	一人ひとりの状態を把握しながら、見守り介助しているが、過去の転倒事故が夜間、早朝に集中していることから、特に夜勤帯での事故発生防止について研修等を通じて学ぶようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	場面に応じた勉強会等一通り行なっているが、定期的に訓練等出来ていない面がある。	○	急変や、事故等想定した初期待応の訓練等定期的実施して行きたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1～2回の防災訓練を実施しているが、実際に発生した場合、周辺の方々には協力お願いしているが、組織的な地域防災の協力依頼、まだ良く出来ていない。	○	自治会等で、組織的に取り組んでいる防災部門についても、協力が得られるようお願いしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクマネジメントの時と同じように、家族との信頼関係が重要と思っているので、普段からの関係作りを積み上げ、その予測されるリスクについて話し合いながら、抑圧感のない暮らしの裏にはリスクが潜んでいることも理解してもらおうようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のバイタルチェックから様子観察、入浴時の観察をふくめて、特別な変化には気をつけており、異常の兆候に気づいたものが、報告、連絡対応するようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人台帳に薬品カード添付するようにして、随時確認できるようにしている。また臨時に処方された場合は連絡帳、勤務引継ぎ時報告するようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘時の下剤等は出来るだけ控えるようにしている。主治医とも相談しながら、便秘に対応した処方をお願いしている。出来るだけ身体を動かすように工夫したり、水分もがんばって取るように支援している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人で出来る方には声かけして見守り、出来ない方は洗浄介助、うがいをやっていただくようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態や、摂取量など検討しながら、食べてもらっている。作る料理も家庭的なものを中心に、好き嫌いについても確認しながら、季節に合った材料を使って、調理している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを基本に、時期にあわせた勉強会をしながら、対応している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な材料確保と、暮らしの場としての清潔、衛生を保つようにしている。2～3日おきには、まな板、包丁など、用具を塩素系消毒液にて消毒している。また、毎日乾燥機にて、高熱消毒するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭から玄関周りまで、違和感を感じさせないように、草花を植えたり、親しみを持てるように心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室から出て、全ての共用の場が、利用者にとって居心地良く過ごせているか、表情も観察しながら、窓からの光などはカーテンで調整、食事時はテレビ等は消して、音楽を聴きながら食事をしてもらっている。テーブルには季節の花を飾り、季節感を取り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルで隣同士話し合ったり、テレビを一人見たり、玄関前の庭を眺めたりと、集団の中で気ままに過ごす場所は出来ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今まで使い慣れた物や、心の安らぐものを持ち込み、プライバシーを大切にしながら、居心地良く過ごせるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室内の様子を観察しながら換気をまめに行い、温度調節についても温度計で確認しながら、出来るだけ外気温との大きな差にならないようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室など、介助の必要な方も少しの介助で行動できるように、手すりや補助具を使用してもらっている。ベッドでの立ち座りなど、必要に応じて個別に設備を整え、少しでも自立した生活が出来るようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分の居室と、他人の居室が分かるように、入り口に名前と写真を表札代わりにしたり、トイレ等にも案内書きをしたりしているが、それでも認識できない人は誘導するようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前庭には草花を植えて、水やりをしてもらったり、玄関先で外気浴しながら草花を眺めてもらったりして、ゆったり楽しんでもらっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

施設のイメージを少なくして、家庭の延長や、隠居くらいのつもりで利用してもらえたらとの思いで、家庭的なホームを目指している。